

いきいきライフ

ラジオ講座テキスト

毎週日曜日 6:30～ 7:00 放送
 毎週土曜日 17:15～17:45 再放送
 FBCラジオ 嶺北 864kHz / FM 94.6MHz
 嶺南 FM 93.6MHz
 パソコン・スマートフォンから radiko や FBC-i で聴くこともできます。



福井県教育総合研究所 教育博物館

令和六年十一月 もくじ

学び強化月間 シリーズ③ 伝統工芸の今とこれから

- 十一月三日放送（第三十一回）
越前焼のこといろいろ
一焼物屋の視点から……………2
風来薫 大屋 宇一郎
- 十一月十日放送（第三十二回）
脱サラ金継ぎおじさん、上野にアパートを借りる
〜クワスター内中小企業による
新市場創出から学ぶ〜……………5
ころしの駒や 代表 数下 喜行
- 十一月十七日放送（第三十三回）
越前打刃物の伝統を今につなぎ
未来へ輝かせる……………7
Sharpnningfour代表
越前打刃物伝統工芸士 戸谷 祐次
- 十一月二十四日放送（第三十四回）
越前和紙×野菜くず
〜伝統工芸にSDGsを〜……………10
株式会社五十嵐製紙 伝統工芸士
五十嵐 匡美
- 感想文のコーナー……………12
- 文芸欄……………15

■十一月三日放送（第三十一回）

越前焼のこといろいろ — 焼物屋の視点から —

風来窯 大屋 宇一郎

●現代の越前焼の成り立ち

この地域の焼物の起源は約1500年前、産地としての始まりは約850年前の平安時代とされ、主に壺や甕、すり鉢などの日用雑器を中心に生産し、北陸最大の窯業地として発展するも一時衰退しました。

1945年、丹生高校の教師の水野九右衛門先生が越前町の自宅近辺で見つかる陶片の研究を始め、間もなく古陶磁研究者の小山富士夫氏により六古窯の一つとして提唱され、越前焼と呼ばれるようになりました。

数軒が細々と生産する越前焼を再興しようと、1971年に福井県が主となって越前陶芸村が開かれ、何組かが応

募して陶房を構えました。この内の1組が私の父母です。（六古窯ガイドブックより一部引用）



●私の作陶の歩み始め

私は焼物屋に生まれ、粘土で遊んだり新窯を焚く手伝いをしながら育ちました。福井県の窯業技能研修コースで学び、ろくろ成形を体験すると体が喜び感覚がありました。アルバイトで生計を立てながら宮崎村（現越前町）の共同陶房で作陶を始めました。手作りのできる数には限りがあるので、顔が見えるつながりで暮らしに取り入れてもらうのが良いと思い、地元を中心に活動することにしました。

●動物の造形

シンプルな器を、と作陶を始めましたが、地元の陶芸祭りに出展してみても一見地味に感じました。そんな時、ろくろで挽いて変形して作ってみたペンギン・イルカ・フクロウのオブジェをテントに飾ると好評で、動物の造形にも取り組むようになりました。

土は大きな固まりで作って焼くと破裂するので、中を空洞に作り花瓶や食器、香炉などに仕上げています。

今は主に現在の野生動物をモチーフに取り組んでいます。この地球にさまざまな動物が共存する多様性が将来も続いて欲しいと願っています。

一方、地元とともに盛り上がるのに恐竜のモチーフも良いなと思っています。

●焼き物の工程

六古窯の産地は皆、地元で焼き物に適した土が採れることから大きな産地として栄えました。越前でも、今も地元で採れる土を大切に調合して、それを主に使っています。作家さんによっては全国流通している土も活用しています。

以下、工程をおおまかに説明します。

- ①土を採取して調合、練り合わせる。
- ②成形、形を作る。
- ③完全に乾燥させてから窯詰め、約800℃で素焼き。
- ④釉掛け、窯詰め。
- ⑤約1240℃で本焼き。
- ⑥磨き仕上げ。

模様はだいたい②か④の時に付けます。

薪窯で昔ながらの焼き方をする時には、成形をして乾燥させたらそのまま本焼する場合もあります。

●使いやすい土のこと

越前の土には鉄分が多めに含まれていて、その影響で重たくなります。しかし器を薄く仕上げると軽くすることが出来ます。

最近、よりきめの細かい土を坏土工場で生産し、薄作りの大変軽い器が作られるようになって、特に盃やビアカップなどで人気を博しています。非常に薄くろくろくろで挽くため、歪みやすかたり、釉薬がのりにくくなったり、など

の問題をクリアして世に送り出されています。

私自身も手によく持つ器は程良く軽いものを目指しています。縁に厚みを残しつつそれ以外を薄く仕上げ、手ですくろくろ挽きしたやわらかさと軽さを両立することを目指しています。

ユニバーサルデザインにも共感します。

私は自分の子供が生まれて乳離れをする頃、片手でスプーンで掬いやすくこぼしにくいお椀型の器を作りました。テーブルの上で滑りにくいように厚く重ためました。赤ちゃんを抱っこして片手で離乳食をあげたい時とか、赤ちゃんが自分でスプーンを持って食べられるとかで大変役に立ちます。

使い心地の追求は、職人としての心意気で、楽しみでもあります。

●オープンファクトリーイベントRENEW

RENEWとは、毎年秋に開かれる、鯖江の河和田から始まった、工房見学を主としたイベントです。

もともと地元を盛り上げる、モノづくりの楽しみを体感できるイベントができないかと思っていたところ、お誘いをもらって早速出展しました。

アウトレットコーナーを設けたり、ワークショップが人気というので、工房見学の後に皿を磨いて仕上げるワークショップをしたり、と工夫しています。ワークショップ

の後に、おまけで自作のオカリナ（土笛）を演奏することもあります。

RENEWは10月から11月に3日間、越前鯖江地区の各工房で開催されます。インターネットでの情報も充実しています。興味の湧いた方は是非足を運んでみてください。

●後継者育成について

後継者の育成は産地の課題です。私の推測では8割方が個人の窯元ですが、個人作家では技術や作業のリズムを伝承していくのです。現在では家族以外の従業員を抱えた窯元はほとんどなくなったので、公共の支援による技能者養成コースの後のいきなり独立しなければなりません。最初の5、6年くらいをサポートするため、頼める仕事を用意することが必要に思います。

●最後に

越前焼は産地の規模は小さいですが、個人作家は最初から最後まで一貫して作っているのが、作品に作り手の個性が強く現れます。身近な手に触れることのできるアートとして、お気に入りのを見つけ、暮らしの中で楽しんでいただけたら幸いです。



講師略歴……大屋 宇一郎（おおや うちいちろう）

1971年越前町（旧宮崎村）生まれ。京都大学工学部建築学科卒業後、越前陶芸村の技能者養成コースにて陶芸研修。2017年に伝統工芸士に認定。

現在は越前陶芸村内の風来窯にて作陶。自然や動物が好きで、それらをテーマにした作品を中心に製作。工房見学の実受入れにも取り組んでいます。

■十一月十日放送 (第三十二回)

脱サラ「金継ぎ」おじさん、上野にアパートを借りる。
「クラスタ」内中小企業による新市場創出から学ぶ

「うるしの駒や」代表 数下 喜行

I 自己紹介

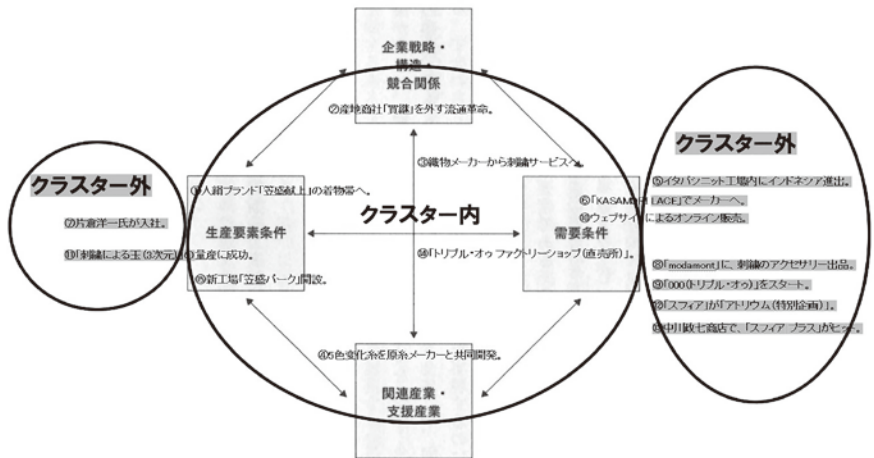
2022年11月の福井新聞に、「鯖江・数下さん、脱サラし金継ぎ工房」との記事が掲載されました。私は新卒以来26年間勤めた日本酒醸造会社を退職し、「うるしの駒や」を開業しました。主な事業は金継ぎと、漆塗りの薄口酒器「つすくたつめし」の製造販売で、2024年4月には上野池之端で金継ぎ教室を開校いたしました。

また、2021年より福井県立大学大学院に在学し、ものづくり産業の集積や流通をテーマに研究しています。修士論文の題名は「クラスタ」内中小企業による新市場創出の事例研究〜刺繍によるアクセサリーブランド「000」(トリプル・オウ)〜で、今回はその事例研究の内容と、私が上野にアパートを借りた理由をご紹介します。



II 地場産業とポーターの「クラスタ」理論

日本各地の地場産業の多くは1990年代以降、衰退・縮小に向かっており、私が住む鯖江



響から成るモデル「ダイヤモンドフレーム」で表したことが広く知られています。

III 「000」が、新市場を創出できた理由

「000」は、群馬県桐生市にある株式会社笠盛から生まれた軽くしなやかな、糸のアクセサリーブランドです。

も例外ではありません。一方、産業集積論の中に、アメリカの有名な経営学者ポーターの「クラスタ理論」があり、ある特定の分野に属し、共通性と補完性によって結ばれた、互に関連する企業と機関から成る、地理的に近接した集団「クラスタ」が、生産性の向上や、イノベーションの促進により競争優位を生み出すと提唱しています。そして、立地が競争に与える影響を、4つの相互に関連する影

2010年にスタートし、2021年には年間の売上高が1億円を超えましたが、それまでの笠盛は、下請けの刺繍加工業務が主流の衰退企業でした。私はその成功の理由を探るべく、インタビューを行い、新市場創出に繋がる15の取り組みがあることに気付きました。これらをポーターのダイヤモンドフレーム上に分布したのが前ページの図です。ダイヤモンドフレーム内に分布し、繊維産業クラスターが生み出す競争優位を活用していることがお分かり頂けるかと思いますが、クラスターの外側にも存在し、特に需要条件の多くがクラスター外に分布されています。

以上より、笠盛は衰退する産業クラスターの中で、クラスターが生み出す競争優位を活用することに加え、不足しがちな需要条件をクラスター外に求めることで、乏しいといわれる中小企業の経営資源を補い、「000」により新市場の創出に成功したと結論付けました。

IV 脱サラ「金継ぎ」おじさん、上野にアパートを借りる

いよいよ、脱サラして「金継ぎ」を生業として始めた私が、なぜ上野にアパートを借りたのかという話です。先ほどの修士論文の結論を、現在の私に当てはめてみましょう。

①株式会社笠盛は

↓つるしの駒やは

②衰退する産業クラスターの中で

↓衰退する漆器産地の近くで、

③クラスターが生み出す競争優位を活用することに加え、

↓産地が生み出す競争優位を活用することに加え、

④不足しがちな需要条件をクラスター外に求めることで、
↓新たな需要を首都圏に求めて、上野にアパートを借り、
⑤乏しいといわれる中小企業の経営資源を補い、
↓創業後間もない個人事業主の微々たる経営資源を補い、
⑥新市場の創出に成功した。
↓経営を軌道に乗せようと必死です。

このような想いで、上野にアパートを借りて、東京進出することを決めました。現在、上野池之端の金継ぎ教室の生徒さんは24名で、上京中に金継ぎ教室を毎月5コマ開講しています。また、昨年1年間に販売した酒器用の「つるすくちうるし」は約800個で、今年の夏からは、珈琲カップとしての「つるすくちうるし」を売り込もうと、都内のカフェを中心に営業回りを始めました。

まだまだこれからですが、まずは事業を軌道に乗せ、いつかは地元の地場産業クラスターの活性化に貢献したいと願っています。

講師略歴……数下 喜行(やがした よしゆき)

1973年福井県鯖江市生まれ。信州大学人文学部卒業後、1996年に黒龍酒造株式会社に入社。酒造りに従事した後、企画部の創設、「九頭龍」「無二」ブランドの立ち上げなどを担当する。経営企画部長、企画営業部長を経て退社。越前漆器の時絵の伝統工芸士である駒本長信氏に師事、2022年に金継ぎを主な業務とする「つるしの駒や」を創業する。2021年より福井県立大学大学院経済・経営学研究科博士課程に在学中。経営学修士。

■十一月十七日放送 (第三十三回)

越前打刃物の伝統を今につなぎ、 未来へ輝かせる

Sharpening four 代表

越前打刃物伝統工芸士

戸谷 祐次

越前市にあるタケフナイフビレッジは、越前打刃物の伝統を現代に引き継ぎ、次世代に伝える役割を果たしています。越前打刃物は700年もの歴史を誇り、日本国内外で高い評価を受けつつある伝統的工芸品です。この地域では、古くから刃物職人たちが鍛冶の技術を受け継ぎながら、包丁や工具、農具など、生活の中で欠かせない道具を作り続けてきました。

越前打刃物の起源



越前打刃物の歴史は約700年前、南北朝時代の頃に活躍した刀鍛冶千代鶴国安に始まるとされています。1337年、京都の刀匠である千代鶴国安が、名刀を鍛えるための水を求めて武生(現・越前市)に移り住みました。そこで刀剣をつ

くる傍ら、地元の野鍛冶に高度な刀鍛冶の技術を伝授し、自らも鎌を打ったとされています。

江戸時代中期になると、武生(現・越前市)は越前鎌で全国1位の生産量を誇る農業用刃物の一大産地となりました。その発展は、隣接する鯖江市で栄えた越前漆器の漆かき職人と深い関係がありました。漆かき職人は、越前漆器の原料となる漆を求め、越前の漆かき鎌を使い、東北、関東、中部地方など全国を旅し、道中で資金を調達するため特参した越前鎌を売り歩き、帰りには各土地柄に応じた鎌の注文を持ち帰ったことで越前鎌が全国に広がりました。時代の移り変わりとともに、農具や日用品の製造に注力し、これが現在の包丁やナイフ作りの技術へとつながっていきま

タケフナイフビレッジの設立

現代社会において、伝統技術の継承は非常に難しい課題です。高齢化や職人不足が進む中で、越前打刃物も例外ではありませんでした。そんな中で、1982年(昭和57年)に設立したのがタケフナイフビレッジです。当時の若手職人10人とデザイナー川崎和男氏と共に、技術を共有し、さらに次世代の職人を育成する場として基本方針を立案しました。

- ① 伝統的工芸品としての打刃物を考える。
- ② 刃物産業としての「現代化」を自論む。

③他刃物産地を調査し、武生（現・越前市）の独自の伝統メーカー、量産・量販メーカーの混在化、地場産業体制化を目指す。

ブランドのコピーは「私たちは美しい切れ味を鍛えています。」

さらに、1993年（平成5年）に共同工房として拠点を作ったタケフナイブリッジは、単なる共同工房ではなく、「見せるための工場」として、閉鎖的なイメージの伝統産業を開放的な観光産業へと生まれ変わらせるという使命がありました。ここでは、訪問者が実際に刃物の製作工程を見学できるほか、製作体験を通じて、越前打刃物の奥深さを理解する機会が提供されています。さらに、若手の職人たちが技術を学び、未来に向けて越前打刃物を継承していくための育成が行われ、現在では14社に増え、若手職人の独立開業が続いています。

技術の伝承と未来への展望

新しい職人を育てるにあたり、タケフナイブリッジ協同組合は「独立」を前提とした育成をしました。そこには「子供だけが親の仕事を受け継ぐ時代ではもうない。本当に打刃物をやりたい人に技術を教え、一人前に育てて独立させることで、越前打刃物の産地が活気付けば」という、職人たちの次代を見据えた想いがありました。

複数の会社が集まる共同工房なので、親方、子方だけの

関係ではなく、会社の垣根を超えてさまざまな職人の技を見つめ、年の近い者同士で語り合い、切磋琢磨をしながら成長しています。

2000年を過ぎると、欧米での日本食ブームや日本刀愛好家の増加を受け、ドイツやフランスなどヨーロッパ各国からの問い合わせが多くなっていったため、2005年からドイツでの展示会に出展し、徐々に海外からの受注が増えていきました。

2023年（令和5年）には年間来訪者約3万人のうち、外国人観光客が2000人を占めています。



越前打刃物が700年続く歴史を誇るのは、千代鶴国安の刀剣づくりから鎌や鉋など、時代のニーズに合わせてその姿を変えていったからだと思います。古くからの伝統を生かし、新しいモノを創造する。変化を怖れず革新へ挑む。さらに後継者を育てて、本当のビレッジ(村)のようにしていきたいと思います。



講師略歴……戸谷 祐次（とたに ゆうじ）

1976年越前市生まれ。地元企業で設備保全、電気工事など10年間の会社員を経験した後、2005年に家業の研ぎ師に転身。主に両刃包丁、各種刃物の研ぎ仕上げ、研ぎ直しなどを担う。2015年からはフランスパリで研ぎ実演と講習を行い、また、シフォンケーキ型抜き用ナイフを共同開発。2018年、伝統工芸士となり、2020年4月、新社名「Sharpenningsfour」をスタートさせた。2023年、自社ブランド「ヌ（HATSU）」立ち上げた。

■十一月二十四日放送（第三十四回）

越前和紙×野菜くろ 〜伝統工芸にSDGsを〜

株式会社五十嵐製紙 伝統工芸士 五十嵐 匡 美

●新しい出会いと繋がりがからまた新しい何かへ

SDGsとは2015年の国連サミットにおいて全ての加盟国が合意した「持続可能な開発目標」です。17の大きな目標とそれらを達成するための具体的な169のターゲットで構成されています。簡単に言うと「世界中にある環境問題・差別・貧困・人権問題といった課題を解決していく」という計画・目標のことです。この「SDGs」、息子が始めた自由研究にも関係があります。

私は越前和紙工房五十嵐製紙の長女として生まれました。紙漉きの工房の中で、小さい頃からの遊び場で紙の匂いの中で育ちました。22歳で五十嵐製紙に入社して、それから

現在まで約30年間毎日が修行ですがきつと性に合っていたのでしよう、毎日仕事が楽しくて仕方ありません。

そんな環境の中、私の次男が小学4年生の夏休みで宿題とし



て理科研究（自由研究）で身近な植物や食べ物から紙を作るという研究を始めました。最初に聞いた時は正直大人の堅い頭で、「出来ない」と思っけど、する事に意味があるわ」とひそかに思っていました。竹の子やエリンギ等どう考えても紙にならなそうなものまで紙にすると言うのです。

それが良い意味で裏切られ、彼は紙にしまいました。しかも、それから5年間毎年このテーマで少しずつ進化させながら研究し続けました。そこで、親ばかな私としては商品化しかならないうことで「Food Paper」というブランドを立ち上げました。

2020年4月にコロナ渦で先が見えない状況での発売でしたが、これがメディアの方々の目に留まり、ありがたいうちに新聞・テレビ・ラジオ・雑誌等、多数取り上げていただいています。

今だからこの商品だったと思います。この和紙の良さは、廃棄されるはずの野菜や果物を使用していることで「ミミ」が減るだけではありません。現在和紙の原料である楮（しゅ）・三椏（みつまた）・雁皮（がんび）等国産のものが入手困難となっています。栽培農家さんの高齢化や跡継ぎ問題等の理由でどんどん生産量が減少してきているのです。

そこで、廃棄されるはずのものを入れることで、使用する和紙本来の原料を減らす役割も持っています。また、この和紙はエシカルでアップサイクルな和紙ですので、教育にも良いです。まさに「三方良し」の和紙だと思っています。

す。私自身この和紙を漉き始めてから、沢山の廃棄される野菜や果物を目の当たりにしてきました。ほんの少し茶色くなっただけで廃棄処分になってしまう等、さまざまな理由で廃棄されるもったいない野菜です。

この現状を沢山の方々に知っていただき、買い物の方法も変えてもらいたいです。すぐに使用するものでしたら、なるべく賞味期限ぎりぎりのものを購入するなど一人一人がほんの少し意識するだけでもっとこの世界は変わることができるでしょう。この考えこそがSDGsの基本的な考え方なのです。どうぞ皆様、これから環境のことをほんの少し考えた生活をしてください。ほんのちよっとだけのもったいない気持ちで子供たちの明るい未来を守れます。

五十嵐製紙では、Food Paper以外の紙も漉いています。北陸新幹線の新駅である芦原温泉駅、福井駅、越前たけふ駅に、また、福井駅の隣接施設ハピリンの入り口やサンドーム福井の小ホール等、県内外のたくさんの方で弊社の和紙をお使いいただいています。生活の一部に和紙が少しでもあると、心が落ち着くと思いませんか？ ほんわかと気持ちが温かく落ち着く気がします。和紙は私にとって生活の一部です。襖紙壁紙はもちろんのこと、和紙灯り、夏は和紙うちわを使います。

また、花瓶の下に敷いたり、ランチョンマットにしたりお客様に出すお菓子の下に敷いたり、テーブルの上に敷いてアクセントにしたり使い方は無限大です。ブックカバー

に葉もあり、御朱印帳も私が漉いた紙で製本しています。海外の方にも和紙の良さを分かってもらえ、アーティストの方々にも大変好評を得ています。

癒しや和を求めるのは世界共通かもしれません。私は近年までそれほど誇りをもって仕事をしていたわけではありません。仕事自体は好きですが、ただ一生懸命紙を漉いているだけでした。数年前にアメリカにアーティストの方の展示会に招待されて行った時に、それはたくさんの方から、あなたの漉く紙は素晴らしい！と絶賛されました。ただ一生懸命にできたことが、その時初めて認められた気がして本当に感動しました。それ以降、私は誇りをもって一生懸命紙を漉いています。人と人との縁は本当に不思議です。いろいろな人とのご縁に感謝して、これからもずっとずっと紙漉きをしていきたいです。皆様とのご縁にも感謝します。

~~~~~  
講師略歴……五十嵐 匡美(いがらし まやみ)

1973年越前市生まれ。1995年五十嵐製紙にウターン、2015年伝統工芸士認定。伝統工芸越前和紙を世に伝える為、様々な活動をしている。普段は襖紙を漉いているが、近年海外のアーティスト用和紙も好評を得ている。2020年廃棄されるはずの野菜や果物を漉きこんだ和紙Food Paperを発表。

# 感想文のコーナー

このコーナーは、受講生の皆様から寄せられた感想文を紹介いたします。紙面の都合上、すべての感想文を紹介できないことをご容赦ください。

## ■九月一日放送（第二十二回）

### わかりやすいボラ活講座Ⅰ

いいことだらけのボランティア

早瀬 昇 先生の感想文より

## ▼齊藤 智恵子（二十五番）

退職して十年を過ぎた頃、県の主催でシニアの活動の一環として、いろいろな内容の塾が発足しました。私はある人を通して茶道塾を担当してもらえないかとの依頼を受けました。まだ健康で茶道の研修も続けていたので、お引き受けすることにしました。当時の入塾希望者は十五名ほどで定年退職をした人ばかりでした。何となく和やかなとても良い雰囲気でした。お月謝は不要で、私が高齢を理由に塾を閉じるまで十八年間続きました。いろいろな人生経験をした人たちの集まりでしたから、週一回のおけいこは、みんなの楽しみの場となりました。入退会は自由で新人も入ってこられました。最初からのメンバーは不思議と続きました。今でもずっとお付き合いは続けています。他の人に喜んでもらえる仕事ができたいということが、私の心を温かくしています。

## ▼竹内 多美子（四十番）

最近では災害が至る所であり、全国からボランティアが結

集して被災された方の支援をされています。傍観している自分には頭の下がる思いです。生き生きと活動するボランティアの人たちの心情を早瀬先生はわかりやすくまとめてくださいました。

「ボランティア活動は我慢して活動するのではなく、我慢できなくて始める活動」という心情があればこそ、生き生きと自由に活動できるのだと思います。ボランティア活動を終えた充実感は、さらに心身の健康につながり、健康寿命を延ばすことが裏付けられています。

「社会のためだけでなく自分自身も元気が得られるボランティア活動」という思いで、現在遠のいている地区の清掃活動など自分にできる範囲で参加していこうと思います。そして、元気を味わってみたいと思います。

## ■九月八日放送（第二十三回）

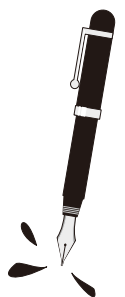
### わかりやすいボラ活講座Ⅱ

シニアにおすすめのボランティアは？

早瀬 昇 先生の感想文より

## ▼山田 寿美（七十二番）

職業生活や子育てを終え、新たなステージで活躍する場がボランティア活動である。各種ステージの中でも「高齢者対象」の活動でシニアの割合が50%を超える最多となっ



ている。

私も退職後、母の介護をしながら仲間と「たんぽぽサークル」を立ち上げ、月1回老人施設へお手伝いに行った。ささやかなボランティア経験がある。そして、介護講座では「してあげる」ではなく「させていただく」の精神が大切であると教わった。施設では入浴介助、話し相手、レクリエーションのお手伝いをさせていただきながら、今までの苦労話や健康や生き方の不安な気持ちなど聞いたりして楽しい時間を持つことができた。自身の今後の生活について考えたり、新たな仲間とのつながりができたりして、約10年続いた。今は20年前とは異なりボランティアの内容や方法も変わってきている。今後は私たちの年代がボランティアのお世話になるのでありがたいと思っている。

■九月十五日放送(第二十四回)

ボランティアに参加するには

山形 真由 先生の感想文より

▼村寄 百合子(二十八番)

先生は高校生の時「赤い羽根募金」に参加されて、福祉活動に関心を持たれたそうですが、そんなに若い頃からと感心しました。社協の中にボランティアセンターがあることを初めて知りました。ボランティアセンターでは、ボランティア活動したい方と応援がほしい方から相談を受け、内容に応じて紹介しているとのこと。また、ボランティア

活動について学びたい方には、ボランティア体験講座や研修会をしていると例をあげてお話しいただきました。

ボランティア活動に不安を持った人に具体的にお話しくださったので、始める決心がつくと感じたお話でした。ありがとうございました。

■九月二十二日放送(第二十五回)

「グリーンフケア」を学びましょう

— 悲嘆の中におられる方を支える為に何ができるでしょうか? —

山崎 純子 先生の感想文より

▼藤沢 静子(百六十四番)

悲しみからの回復をサポートする活動、「グリーンフケア福井」の存在を初めて知りました。世の中には予期せぬ不幸や、悲しい別れにいつ遭遇するかわかりません。悲しみを抱えて立ち直れず、孤独な日々を過ごしている人がどれだけおられることでしょうか、どれほど辛いことでしょうか。私の友人に鬱病で苦しんでいる人がいますが、どう元気づけたらいいかわかりません。どちらの立場になっても「グリーンフケア福井」の活動や、助言はとてもありがたいことだと思います。

脱毛で苦しむ癌患者様へのボランティア活動の取り組み、素晴らしいです。能登の方が震災と今回の大雨による二重の災害で、どんなにか辛い思いでおられるかと思うと心が痛みます。今こそグリーンフケアの重要性を感じる共に、セルフケアによって少しでも回復されますようにと思います。

## ▼山場 太郎（四番）

「私は大切な人を失った人に悲しみからの回復をサポートする活動をしています」と先生は自己紹介されました。

血縁や地縁が減少した現代は、悲嘆を通じて人生観や繋がりを練り直していく時代に入ってきているとおっしゃいました。我々が子どもの頃は、各家庭に子どもが5人以上いました。1人や2人の家は珍しかったです。子どもの多さは繋がりが広くなる源だと思えます。

「死は常に死にゆく人と遺される人との二つの側面がある。そして苦痛の分配という点では遺されるものが多くを負うのである」とイギリスの歴史学者が言ったそうですが、この世の中、まさにその通りです。先生は18歳で母を癌で亡くし、46歳で息子を事故で失いましたと話され、グリーフとは「悲嘆」、深い悲しみや苦悩のことと説明されました。先生は悲嘆の中にいた経験者だと納得しながら拝聴しました。

## ■九月二十九日放送（第二十六回）

“ありがとう”で笑顔満開の一日を  
～ふくい桜マラソンボランティア～

小川 健 先生の感想文より

## ▼福岡 隆夫（二百二十八番）

「ふくい桜マラソン」の動画を改めて観た。画面に見える多くのボランティアが楽しそうに笑顔で活動している。講師がおっしゃるように、多くのボランティアが必要な

だと分かった。いろいろな役割があって、一人一人の連携で活動が円滑に行われている。給水所での連携は本当に大変だと感じた。活動者一人一人がマラソン参加者に声掛けしている。また、マラソン参加者とボランティア参加者の意思疎通も見受けられる。沿道に並んで声掛けし、拍手している人たちによって、走っている参加者たちは元気づけられ、励まされたことだろう。

「ふくい桜マラソン」のボランティア事前説明会が行われ、活動マニュアルが配布されている。スポーツボランティアという活動が県内にも定着していくことを実感した。近くて、若ければ参加したいと思った。



文 芸 欄

俳 句

今を生く老いまた愉し唐辛子  
アクセルをまだ踏む力敬老口

前川 康子 (二十四番)

新米に人肌ほどの温みあり  
おしゃべりな人に絡まる落ち葉かな

高石まゆみ (百六十五番)

顔じゅうで欠伸する嬰小春かな  
泡立ち草飲み込んでゆく峡の里

中山 慶子 (二百六番)

孫とさす将棋戦夫もつれし顔  
将棋戦孫に負けてもつれし顔

前川嘉津子 (二百十八番)

## ラジオ講座「いきいきライフ」 川柳コンテストのご案内

**応募条件**

ラジオ講座いきいきライフでは、「ほのぼの」をテーマとして川柳を募集しています。作品は未発表のもので、一人二句まで応募できます。

**応募方法**

郵送またはFAXで、住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、ご応募ください。こちらのフォームからも応募できます。

**応募の締め切りは令和6年11月30日(土)です。**

**表 彰**

優秀作品五句を選び、令和7年3月2日(日)放送のラジオ講座「いきいきライフ」で発表します。  
作品が選ばれた方は、3月に開催する修了式にて表彰を行い、図書カード(2,000円)を進呈します。

**応募先**

福井県社会福祉協議会 地域福祉課「川柳コンテスト」係  
〒910-8516 福井市光陽2丁目3-22  
TEL 0776-24-2433  
FAX 0776-24-0041



たくさんのご応募を  
お待ちしております。

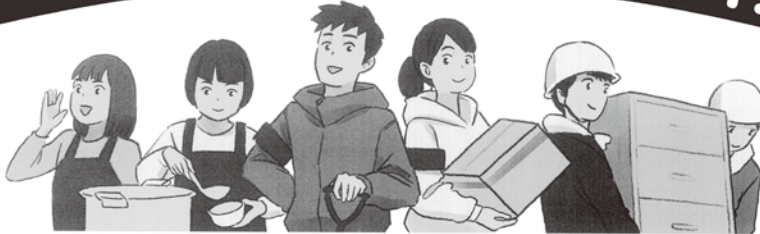
令和6年度

<https://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険 検索

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

# ボランティア活動保険



新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類感染症に変更されたことに伴い、「特定感染症重点プラン」を廃止して2つのプランとします。

**保険金額・年間保険料（1名あたり）** 団体割引20%適用済 / 過去の損害率による割増適用

| 保険金の種類        |                      | プラン    | 基本プラン       | 天災・地震補償プラン               |         |
|---------------|----------------------|--------|-------------|--------------------------|---------|
| ケガの補償         | 死亡保険金                |        |             | 1,040万円                  |         |
|               | 後遺障害保険金              |        |             | 1,040万円(限度額)             |         |
|               | 入院保険金日額              |        |             | 6,500円                   |         |
|               | 手術保険金                | 入院中の手術 |             |                          | 65,000円 |
|               |                      | 外来の手術  |             |                          | 32,500円 |
|               | 通院保険金日額              |        |             | 4,000円                   |         |
|               | 特定感染症                |        |             | 補償開始日から補償 <sup>(*)</sup> |         |
| 地震・噴火・津波による死傷 |                      | ×      |             | ○                        |         |
| 賠償責任の補償       | 賠償責任保険金<br>(対人・対物共通) |        |             | 5億円(限度額)                 |         |
|               | <b>年間保険料</b>         |        | <b>350円</b> | <b>500円</b>              |         |

商品パンフレットは  
こちらから



(ふくしの保険  
ホームページ)

<sup>\*</sup>特定感染症についても10日間の免責期間がなく、補償開始日から補償対象となります。  
なお、令和5年5月8日以降、新型コロナウイルス感染症は補償対象外となりました。

<重要>

- ◆基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- ◆年度途中でご加入される場合も上記の保険料となります。
- ◆中途脱退による保険料の返金はありません。
- ◆途中でボランティアの入替や、ご加入プランの変更はできません。
- ◆ご加入は、お1人につきいずれかのプラン1口のみとなります。

**ボランティア行事用保険** (傷害保険、国内旅行傷害保険特約傷害保険、賠償責任保険)

**送迎サービス補償** (傷害保険)

**福祉サービス総合補償**  
(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

●このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**

〈引受幹事〉損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課  
〈保険会社〉  
TEL:03(3349)5137

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F  
TEL:03(3581)4667

受付時間：平日の9:00～17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

受付時間：平日の9:30～17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。